新聞画會
第卅三号
大阪嶋の内畳屋町ニ住む狂言作者奈河重助と云ハ作者中での老人株追々門人夥しく知音も又弘けれバ年の始め
鏡餅を貰ふ事山の如し家居さまで廣からねバ座敷より臺所まで透間も無く積重ね寝所とすべき処
こゝかしこ三尺四方
是を見て或人祝哥を贈る
かび臭き噺なれど聊神国の遺風あれバ爰ニ記す
良助
正作
金次
政助
八尾善版